

※議長(さかえ章演)、副議長(谷口武司)、監査委員(市原誠二)は、慣例により一般質問を控えています。



財政状況について・三郷駅周辺まちづくり等について



公明党
尾張旭市議員
片瀨 卓三

Q 財政改善の進捗と見通しについて伺う。

A **市長**／財政調整基金の残高は、令和8年度末には20億円に減少する見通しである。現在の財政状況が続いた場合、財政調整基金は、毎年5億円程度の減少が見込まれるため、何も手を打たないと、令和12年度に基金が枯渇するおそれがある。「行財政基盤集中改善プロジェクト」を立ち上げ、改善目標額を5億円に設定して、年末までの短期集中で取り組んでいる。

Q 三郷駅前再開発の進捗状況と今後のスケジュールについて伺う。

A **市長**／令和7年度の最大の目標であった「権利変換計画」に関して、令和8年2月27日付けで県から認可を受けることができ、今後のスケジュールとして、今年5月から現地に仮囲いを設置し、7月頃から既存建物の解体工事に、来年1月頃から建築工事に着手する予定であり、令和11年度の竣工を目指す。



平子町北地内市有地の有効活用と市場調査について・尾張あさひ苑の経営改善と存続の意義について



市民クラブ
早川 八郎

Q サウンディング型市場調査は、本市の資産という「足下」を掘り下げ、民間の知恵によって「泉」を湧き出させるプロセスであるが、地域にどのような恩恵をもたらすのかを伺う。

A **市長**／産業系の利活用に向け、全域を売却する方向で進める。その効果は、安全安心面のリスク解消、産業活力の創出で雇用の確保や税収増をもたらす、市全体の波及効果や市民サービスの充実のほか、更なる地域活性化が期待できる。

Q 尾張あさひ苑は、長年厳しい経営状況にある。昨今、民間ではリーズナブルで充実したサービスを提供する宿が台頭しているが、経営を劇的に改善させる処方箋はあるのかを伺う。

A **市長**／働く職員が不足し、営業日などを制限せざるを得ない状態で、安定した経営は難しい。引き続き、保養所として存続したいが、収支の状況を踏まえ、機を見誤ることがないように、抜本的な対策の検討を指示している。



健康施策の充実について・「あさひフェスタ」の開催について



令和あさひ
陣矢 幸司

Q 今後どのように健康施策の充実を考えておられるか伺う。

A **市長**／令和8年度からの新たな取組としては、地域医療機関の協力により、小学校入学前の子どもの心身の発達について確認し、適切なサポートにつなげるための5歳児健康診査を、近隣市に先駆けて実施する。今後も、健康施策を充実することで、市民の皆様の健やかな暮らしを守っていく。

Q 「あさひフェスタ」の具体的な構想を伺う。

A **市長**／広大な敷地を持つ森林公園をエリアごとに分け、これまでの各祭りの特色を生かしつつ、多様なプログラムやイベントを実施する。市内外の多くの皆様と一緒に楽しみ、交流を図ることで、本市の魅力を感じていただき、暮らしに「楽しさ」という彩りを加える、そのような祭りを目指していく。